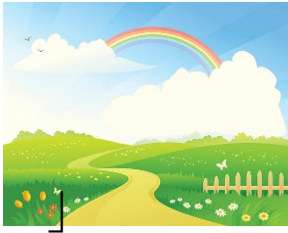


こころのほつと通信



「いいことも悪いことも
抱えて生きてみよう！」



～「リラの花咲くけものみち」の話をヒントに～

私たちは、「良いことだけがあったらいいのに」と思うことが多いと思います。しかし、世の中、生きていたら、良いことも悪いこともあります。悪いことがあった時は、辛くなったり、もう前に進むのが嫌になったりすることがあるかもしれません。その時、どうしたらいいのか、今回は、「リラの花咲くけものみち」（光文社・藤岡陽子著）のお話の一部をヒントに考えてみたいと思います。

主人公の聡里（さと）は、小学校4年の時、お母さんが病気で亡くなってしまいます。その後、お父さんと2人で暮らしていましたが、中学1年から新しいお母さんが来ます。赤ちゃんが生まれ、聡里の飼っていた犬が新しいお母さんに捨てられないか、聡里は不安で、学校に行かないで、犬と部屋にいました。聡里の15歳の誕生日に、おばあちゃんと暮らすことになりました。そして、動物が好きだから、おばあちゃんと離れて、北海道の大学（獣医学部）に行くことになりました。

獣医学部で実習に一生懸命取り組んでいました。ある日、馬の出産に立ち会い、仔馬が生まれてくるのをとても楽しみにしていましたが、仔馬は生きて産まれてくることができませんでした。聡里は、ショックを受けて、実習から抜け出してしまいました。

この時、聡里は、何のために獣医師になろうとしたのかわからなくなり、大学を続ける自信がなくなってしまったのだと思います。

この後、聡里は故郷のおばあちゃんの元に帰ります。そして、おばあちゃんから、お母さんの話を聞きました。お母さんは、小さい頃から体が弱くて、子どもを産むのも周りの人に反対されていたけど、「今までいろんなことをあきらめてきた。でも、自分の子どもを産みたい」と言って、聡里を生んでくれたそうです。お母さんは、自分の体がどうなるかわからないのに、聡里を生んでくれたのです。聡里はもう一度、獣医師になろうと決心し、大学に戻ります。

聡里は、命を賭けてお母さんが自分を生んでくれたことを知って、この先どうなるかわからないけど、どうなっても動物を見守っていこうと思ったのではないのでしょうか。

私たちも、期待していたことや目的としていたことがダメになったり、うまくいかなくなったりしたら、「もうやめよう」と思ったり、諦めたりしたくなることもあるかもしれません。しかし、聡里のお母さんのように、「どうなるかわからないけど、これだけはあきらめたくない」と思って、前に進んでみると、自分が本当に求めているものが手に入ることもあると思います。

今はわからないことや、見えないでどうしたらいいかわからないこともあるかもしれません。しかし、良いことも悪いこともあるけれど、両方のことを抱えながら、あきらめないで進んでいくと、それが自分の力になって、色んなものを乗り越えていく糧（かて）になると思います。

もし、「やってみただけどうまくいかない」「どうしていいかわからない」と思った時はカウンセリングルームに来て下さいね。

★カウンセリングルームへの申込方法（くわしくはパンフレットを見てください）

カウンセリングルーム1（科学館1階）の掲示板にある「面接予約表」を見て来たい日時に○印をつけてください。担任の先生を通して、申し込んでもらうことも可能です。

*相談場所 カウンセリングルーム1（科学館1階） カウンセリングルーム2・3（記念体育館1階）



★ 2月12日（水）16時5分～「グループ箱庭」にご参加下さい。詳細は教室に掲示しています。